

〔特別報告〕

社会福祉の次代を担う人材像について

大濱 徹*

地域のニーズ

社会福祉の分野にこういう人材が足りないのではないかと、人材像を考えていることを発表させていただきます。僕が考えているビジネスとか事業は社会的な意義、どういう社会を作っていきたいかという意味で事業を起こすことです。その結果、その中から利益をあげてもいいと考えています。ベンチャービジネスのような儲ければいい、株式公開をすればいいというビジネスでの意味ではありません。社会的に意義のある事業です。社会福祉分野の人材を作っていくのはソーシャル・アントレプレナー（社会起業家）だと考えています。医療、福祉、教育、環境、文化などの社会サービスを事業として行う人たち。単に社会的使命を持って事業を起業するだけでなく、行き詰まった社会的事業を活性化したり、また非営利組織をプロとして経営するなど、その活動のスタイルは様々である。普通の企業は株主の利益を最優先します。社会的起業家は、NPOであれ、有限会社であれ、株主や利益が大事ではなく、社会的に価値のあるものを作っていく、それを第一にするのが社会起業家ととらえています。

社会起業家がどうして必要となるか。社会福祉を取り巻く環境について、たとえば高齢者福

祉の分野で介護保険が導入されました。大手の民間企業が参入して今のところは失敗していると思います。その原因は新聞やテレビで載っていますが、僕は企業がニーズを読み違えたのだと思います。蓋を開けてみたら身体介護より家事援助が多かった。民間企業のK社、M社は地域のマーケティングをしないで全国展開をして事業を興した。農村と都市部では家族形態が違い、介護に対するニーズも違います。それを調べないで全国で画一的なパッケージを作った。ニーズが読みきれなかった。戦略的な誤りだと思います。

他との競合

社会福祉法人が事業を囲い込んできたと言われていますが、僕は、介護や福祉は人でつながっていると思います。あるお年寄りがホームヘルパーを頼んだ。K社のホームヘルパーがM社に変わると自分の身の回りの手伝いをする人も変わる。K社は頻繁に人を移動したので根づかなかったのではないかと感じています。そういうわけで介護保険に参入した大手の会社は撤退したと思います。そこから思うのは、福祉は地域でしか担えないものではないかと感じています。福祉事業、市民活動、NPOの広がり方を見てみると、社会的なニーズを目指した人が事業化する。組織化する。活動を担う時、地域からの視点、地域

* 立命館大学産業社会学部学生

からの支援者が加わる。地域資源を活用したり地域資源からの参加がある中で福祉事業が広がっていくと思います。地域を掴んで、地域に根ざして地域で大きくなるのが、この分野の事業だと思います。福祉は地域で担うものではないかと思っています。

社会福祉を取り巻く環境

企業ピックアップに続いて医療ピックアップが起り始めています。医療市場でいろんな参入が進み出そうとしている状況にあります。同様に社会福祉基礎構造改革の中で福祉の分野が市場化されつつある。所得のある利用者にとってはそんなに問題ではないが、立場の弱い判断能力のない利用者であったり、所得の低い利用者は市場から取り残される可能性がある。そういう人たちを誰が担っていくか。地域単位でしか担えないと思います。行政でも自治体でも担えない。今ある社会福祉法人、社協もなかなか法規制もありますから新しい展開をしていくのは難しい。財政的にも難しい。そういう中で地域で担う福祉を誰がやるのか。僕は社会起業家だと思っています。規制の枠にとらわれず、自由な発想でいろんなところとネットワークを組んで事業をする。

今後、地域福祉に求められる人材

ソーシャル・アントレプレナーの定義ですが、社会全体の流れをとらえる視点を持っていて、その中から身近なニーズを発見できる人材、それを解決するために人、モノ、お金、情報の流れを作って組み立てていくマネジメントの力を持っている人材だろうと思います。具体的に新しい事業が民間に入ってもいい、社会福祉協議会に入ってもいい、施設に入ってもいいので

すが、どこでも新しい事業を興せる人材、ビジネス、NPOを興せる人材がソーシャル・アントレプレナーだと。こういう人材が地域福祉を担っているのではないかと考えます。

ソーシャル・アントレプレナーの概念と福祉の担い手

たとえば地域に足がなくて食材が運べない。そこで地域にそういうお年寄りが100人、200人の単位にいる時、新聞屋さんは朝刊は自転車の籠に一杯ですが、帰りは空っぽです。そこにスーパーから食材を仕入れて配達の際に一緒に配る。そういう発想をするとソーシャル・アントレプレナーが自分で食材を仕入れるシステムを作るよりもはるかに安くできる。もともとあるものを使って組み立てられるわけですから、お年寄りにとっても安いサービスを提供できる。事業ですからソーシャル・アントレプレナーは食べていくための利益を得ないといけません。広めていくための利益も得ないといけません。社会的な営利のある事業で地域福祉を担ってほしい。ソーシャル・アントレプレナーのなり手は誰か。ここに来ている社会福祉士だろうと思います。ソーシャルという表現を使うのは、社会の枠組みの問題としてとらえるからですが、社会福祉士の資格は他の資格より幅広くさまざまな考え方ができる。個人と制度、サービスをつなぎ、在宅福祉を支える中核的役割を担う専門職として伸びてきている。福祉について広い知識を持っている。認められている資格である。社会福祉士が主になって、地域での視点、民間企業でもいい、行政でもいい、社会福祉法人でもいい、それを結びつけて地域に自由にサービスを展開していける、そういう事業を興す人材が必要ではないかと考えています。

情報化の時代です。速いスピードで世の中は流れています。既存の施設、法人はなかなか次代のニーズにあったものを作り出していきなり。全くフリーの人間がいろんなものを結び付け、担っていく人間がいるだろうと考えています。これからの社会福祉は地域福祉だと、地域福祉を担うのはソーシャル・アントレプレナーですと、そのなり手は社会福祉士だというのが、次の社会福祉を担う人材であると考えています。

社会福祉士課程の現状を見ると、卒業に必要なカリキュラムの上に現場実習がある。ボランティアもやる。福祉施設全体について学んで、現場実習もするわけですが、一つの事業として

自分の思いを具体化する授業を経験していない。学生にそういう授業を、ビジネスとしての福祉の経験、マインドを伝える場を作りたいと4月からそういう授業を立ち上げようと思っています。学生から金はとれないので収益を上げる起業を考えていますが、そことリンクさせながら、社会福祉課程に在籍している学生にマインドを伝えていけないかと考えています。僕は発達福祉コースにいますが、社会福祉課程にはいません。社会福祉分野に足りない人材を僕のような人間がやらないといけなく考えています。ただ社会福祉については素人で経験もありません。先生方、学生も応援していただけたらと思っています。

ソーシャル・アントレプレナーに関する書籍 ソーシャル・アントレプレナーの実践事例等に関する書籍

- 「社会起業家～「よい社会」をつくる人たち～」 町田洋次 PHP新書
- 「サンフランシスコ発:社会変革NPO」 岡部一明 御茶の水書房
- 「コミュニティ・ビジネス」 細内信孝 中央大学出版部
- 「NPO(民間非営利組織)とは何かー社会サービスの新しいあり方」
電通総研編 日本経済新聞社
- 「コミュニティの再生とNPOーサンフランシスコの住宅・福祉・まちづくり」
川合正兼 学芸出版社
- 「ボランティアの時代～NPOが社会を変える～」 田中尚輝 岩波書店
- 「みんなで都市・町・村を元気にするコミュニティ・ビジネスの実践」
東北産業活性化センター編 日本地域社会研究所
- 「高齢者NPOが社会を変える」 田中尚輝:足立清史 岩波書店
- 「在宅看護への道ー起業家ナースの挑戦」 村松静子 医学書院

はじめに一言葉の定義

⇒ビジネス〔business〕

- (1) 仕事、事業、商売。
- (2) 特に、個人的な感情をまじえない、金もうけの手段としての仕事。

⇒じぎょう〔事業〕

- (1) 仕事。特に社会的意義のある大きな仕事。
- (2) 営利を目的として営む経済活動。

⇒ふくし〔福祉〕

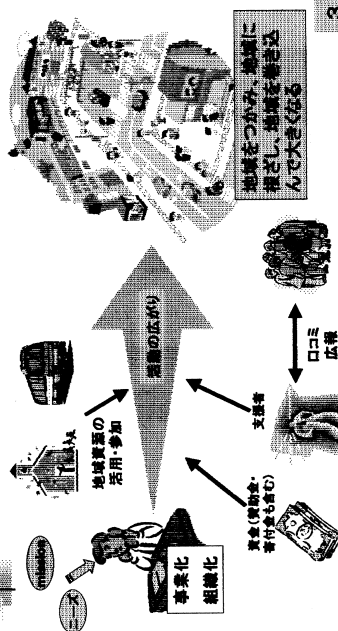
幸福。特に、社会の構成員に等しくもたらされるべき幸福。「公共の一」「社会一」に「事業」

⇒ソーシャル・アントレプレナー（社会起業家）

医療、福祉、教育、環境、文化などの社会サービスを事業として行う人たち。たんに社会的目的を持った事業を営むだけでなく、行を固まつた社会的責任を帯びた事業として営むなど、その活動のスタイルは様々である。

「社会起業家～よい社会をつくる人たち～」PHP出版 町田洋次 著

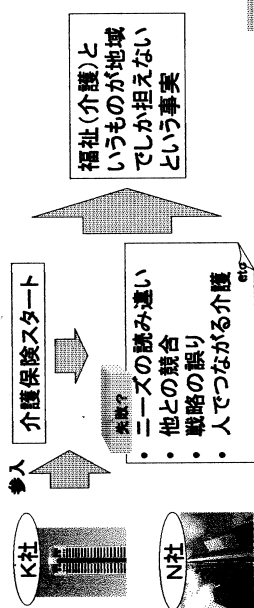
福祉事業や市民活動の広がりの方



3

社会福祉（高齢者）を取り巻く環境①

介護保険の導入と大手民間企業の失敗



2

社会福祉を取り巻く環境②

- 医療ビッグバンの到来
⇒ 医療市場（医療・医薬・医療機器・生保・医保）での規制緩和・構造改革・外資の参入など。
- 社会福祉基礎構造改革
⇒ 「措置」から「契約」へ。選択と自己責任の時代へ。

所得の低い（立場の弱い）利用者（患者・顧客・消費者）が市場から取り残される可能性

地域で担う必要性

4

